



発達障害

発達障害とは

「発達障害」とは、中枢神経系の障害のため、生まれつき認知やコミュニケーション、社会性、学習、注意力等の能力の偏りや問題を生じ、現実生活に困難をきたす障害をいいます。

●分類と説明

自閉 スペクトラム症 (ASD: アスペルガー 症候群、自閉症など)	社会性の障害	感情が読み取れない、視線や表情をうまく使えない、興味関心や意味を共有できない
	コミュニケーションの障害	会話が続かない、一方的、同じ表現の繰り返し
	こだわりが強く 柔軟性がない想像力の障害	モノ集め、知識集め、ルールや考え方を変更できない
注意欠如・多動症 (ADHD)	注意の障害 (持続、配分、転換)	遅刻が多い、不注意なミスが多い、提出物の遅れ、複数の課題を並行してこなせない
	多動	落ち着きがない、待てない
	衝動性	衝動的でつい余計なことをしてしまう
限局性学習症 (SLD)	一般的には知的遅れはないが、話す、聞く、読む、書く、計算する、推論する能力のうち、特定の能力の習得と使用に著しい困難。	

発達障害のある人の困難さ

発達障害は見た目ではわかりにくい障害です。行動面や言動で特性が表れることもありますが、例えば、大学に進学している人などについては目立ちにくいことも少なくありません。さらに、環境要因によっても、困難さの現れ方が異なるため、個性性がとても高いことが特徴です。

また、発達障害に起因するトラブルが起こっていたとしても、本人や周囲が個人的な努力不足等と受け止めてしまうケースもあるため“困っている人”として認識されないことがあります。さらに、環境との相互関係により問題が生じることが多いため、個人の困難さをどのように解消・軽減するか判断が難しい場合があります。

●困難の具体例

時期	内容
入学まで	(入学試験) 集団の中で試験が受けられない／答えを口に出してしまう／文字を読む、書くのが苦手 (入学前) 支援受付窓口がわからない／どのような支援を受けられるかわからない
学習	(履修登録) 履修計画が立てられない／自分に適した授業が選択できない (授業内容、形式、評価方法等) (授業) 話を聞きながらノートを取るのが困難／決まった席でない座れない／自分の意見が言えない、または言い過ぎる／質問ができない、質問に答えられない 急な変更に対応できない／対人関係に問題が生じる 集合場所・時間を間違える 手順が理解できない (レポート・卒論) 課題や卒論のテーマが決められない (グループ討議) 自分の考えを述べたり、質問に答えたりという部分がうまくいかない場合がある
就職活動	履歴書が書けない／職業の適性が分からない／就職が決まらない
学生生活	自分に必要な支援を説明できない／自分の障害を理解できない／集団活動に問題が生じる／聴覚や触覚に過敏性を持つ面がある 等
災害時	落ち着いて行動できない／安否等が確認できない／こだわり、パニックが強くなる 等

障害のある教職員の困難の具体例：間接的な表現が伝わりにくい 等

発達障害のある人への支援

発達障害のある人への支援では、本人の自己理解を促進し、強みや長所と障害特性に起因する困難の両方を視野にいれることが大切です。

●対応・配慮の具体例

時期	物的支援	人的支援	環境調整	その他
入学まで	パソコン等使用許可 注意事項等の 文書による伝達	提供可能な支援の事前相談	別室受験 試験時間の延長	相談窓口についての 情報提供
学習		履修登録補助	シラバス内容の具体化	学習方法の相談
環境整備	内容の録音許可、 パソコン等使用許可 ノイズスキャンの ヘッドフォンの使用等 休養室等の用意	議論のルール設定 具体的な時間の設定 具体的な質問の仕方 担当教員による綿密な面談 わかりやすい手順説明資料の 作成、配布	座席配慮（座席位置を指定） 連絡事項の伝達方法の工夫（文書、 個別伝達、メール等） 提出期限の延長などの検討 居場所の提供	時間管理スキル指導 自己管理スキル指導
就職活動	内容の録音許可、 パソコン等使用許可 ノイズスキャンの ヘッドフォンの使用等	エントリーシート作成や採用 面接に向けた指導	就業体験、就職ワークショップ等の 紹介、外部機関との連携、 外部リソースの情報提供	障害者手帳の取得 指導等
学生生活	内容の録音許可、 ノイズスキャンの ヘッドフォンの使用等	支援要請スキル指導	専門機関（学生相談室等）との連携 周囲への理解の啓蒙	—
災害時	ノイズスキャンの ヘッドフォンの使用等	避難方法の計画 避難訓練の実施 安心感を与える、見通しが 持てるように説明する、社会 的スキルの指導	避難できる経路の確保 緊急時の連絡体制（安否確認） 日頃からの手順の確認	個別の情報伝達

障害のある教職員への対応・配慮の具体例：手続きや申請の手順を矢印やイラスト等で分かりやすく伝える 等

●支援のポイント

- ・ 周りが「問題学生」ではなく「困難を抱えている学生」という意識転換をする
- ・ 学生自身の自己理解の促進を進める
- ・ 困難や自己不全感をともに解決し、自己理解を進める支援、配慮を要請できる力の育成を実施する
- ・ ピア・サポーター等身近な支援者が「通訳者」の役割を遂行する
- ・ 教職員による具体的場面での具体的指導、学生の苦手と得意の把握、支援の個別化、PCなどの支援技術利用の指導を実施する
- ・ 個人の苦手・得意に応じての個別対応を行う
- ・ 評価方法の詳しい情報公開と他学生との公平さを保つ評価方法を検討する
- ・ 社会マナーの指導、教育を行う／心理カウンセリング利用に繋げる
- ・ 環境調整を行う

発達障害のある人への支援において、本人を含めた話し合いの場で支援内容・方法を決定（人がイメージを持ちやすいような工夫）すること、定期的に見直しを行うことが大切です。

アビリティ

- ・ 興味がある分野に対する情熱が凄くて知識が豊富！
- ・ 興味があるものや事柄に対して高い集中力を発揮できる。

関連情報の入手先

ゆうゆうセンター 福岡市発達障がい者支援センター
www.fc-jigyoudan.org/youyou/index.html